別紙４

報告番号	※　　第　　号

主　論　文　の　要　旨

論文題目　日本における統合失調症患者に対する地域定着を目指した看護支援の構造と病棟風土および省察との関連

氏　　名　　牧 茂義

論　文　内　容　の　要　旨

【緒言】

統合失調症は幻覚や妄想といった陽性症状，意欲低下や自閉といった陰性症状，実行機能の障害といった認知機能の障害を引き起こす。寛解した後にも症状の再燃をしやすいことが特徴の一つである。症状の再燃は，自傷他害・セルフネグレクトにつながり，地域生活の継続を困難にする。病院から退院した統合失調症患者のうち，15-30%が退院後 90 日以内に再入院している。再入院は統合失調症患者に苦難を与え，予後に影響し，家族機能の破綻，さらには医療費の高騰につながることが知られている。

退院後 90 日以内の期間において，患者に危機が生じるリスクは高い。退院後 90 日以内は自死のリスクが高いと言われている。さらに患者が退院後に，地域のケア提供者と治療的な関係を形成するには 90 日の期間が必要であると言われている。しかし，日本における地域の精神保健医療福祉システムは未だ十分であるとは言えない。本研究においては，地域定着を『90 日以内に再入院した患者が入院治療を受けて退院した後，90 日を超えて地域生活を継続できること』と定義する。日本の精神保健医療福祉の現状において，統合失調症患者の地域定着を目指すためには，病院における看護ケアは重要である。ゆえに，『統合失調症患者の地域定着を目指した病院看護』を構成する因子，つまりその看護の構造を明らかにする必要がある。

『統合失調症患者の地域定着を目指した病院看護』を促進するためには，その看護の関連要因を明らかにする必要がある。看護師は省察することによって経験と知識をつなげることで卓越したケアが可能になること，看護師の実践には，看護師の個人要因と共に環境要因も影響すること，病棟風土の肯定的評価は，高い治療意欲や質の高い患者－スタッフ関係と関連することが示されている。地域生活の継続に困難を有する患者には，卓越したケアや質の高い患者－看護師関係が必要になる。以上より，統合失調症患者の地域定着を目指した病院看護には，看護師の省察と病棟風土が関連すると考えられる。

【目的】

1. 統合失調症患者の地域定着を目指した病院看護の構造を明らかにする。
2. 統合失調症患者の地域定着を目指した病院看護の関連要因を明らかにする。特に，看護師の省察，または病棟風土の関連を検証する。

【対象および方法】

研究デザインは横断研究である。日本全国の精神科病院 40 施設（内訳は，19 の公的病院，6 の公益法人病院，15 の医療法人病院）で勤務する看護師 1995 名に自記式質問紙調査を実施した。対象者の包含基準は，1）常勤の正看護師，2）精神科病棟で勤務している看護師である。除外基準は，1）看護師長以上の看護管理者，2）外来勤務の看護師，3）パートタイムの看護師，4）准看護師である。

調査内容は，独自に作成した『統合失調症患者の地域定着を目指した病院看護の調査票』(IRERSS)，看護師の属性，勤務病院/病棟の特徴，エッセン病棟風土評価スキーマ(EssenCES)，Rumination-Reflection Questionnaire における省察(RRQ-Ref)，および看護実践の卓越性自己評価尺度―病棟看護師用―(NES)である。

IRERSS は牧ら(2018)の質的研究を参考に作成された 43 項目からなる質問票である。回答者に，『過去に関わった統合失調症患者のうち，退院後 90 日以内に再入院し，入院治療の後に 90 日を超えて地域生活を送った患者』を思い出してもらい，再入院の期間に回答者がその患者に行った看護支援について尋ねるものである。得点が高いほど，『統合失調症患者の地域定着を目指した病院看護』を実施する程度が高いことを示す。

本研究は名古屋大学大学院医学系研究科生命倫理審査委員会の承認（承認番号：17-155）を得て実施した。

IBM SPSS Statistics 25 を用いて，以下の分析を実施した。

① 『統合失調症患者の地域定着を目指した病院看護』の構造を明らかにするため，IRERSS に対する項目分析と探索的因子分析（最尤法・プロマックス回転・因子数の決定は，Kaiser-Guttman 基準）

② データの特徴を明確化し，次に続く重回帰分析において独立変数として投入する変数を検討するため，1) IRERSS 総得点，IRERSS 下位尺度得点，EssenCES，RRQ-Ref，NES の相関分析，2) IRERSS 総得点および IRERSS 下位尺度得点における対象者の属性または病院/病棟の特徴による群間の t 検定・ANOVA

③ 『統合失調症患者の地域定着を目指した病院看護』の関連要因を明らかにするため，IRERSS 総得点およびその下位尺度得点を従属変数，②で有意となった変数を独立変数とした重回帰分析（ステップワイズ法）

【結果】

823 名から質問紙の返信があった。欠損値のある回答および対象者の適格基準に満たない回答は

除外し，724 名の回答を分析した（有効回答率 36.3%）。IRERSS に対する項目分析および探索的因子分析の結果，7 項目が除外され，36 項目となった。IRERSS は 5 因子で構成され，各因子は因子 1『認知機能とセルフケアへの支援』，因子 2『再入院の課題の把握』，因子 3『退院後の生活に関わる連携体制の整備』，因子 4『退院後の目標の共有』，因子 5『休養の場の提供』と命名された。

IRERSS の下位尺度得点を従属変数とした重回帰分析では，因子 2『再入院の課題の把握』および因子 5『休養の場の提供』にのみ，看護師の省察が有意に関連していた（各因子 $\beta = 0.12, p < 0.001$; $\beta = 0.12, p < 0.001$）。IRERSS 総得点を従属変数とした重回帰分析においては，認定・専門看護師の資格（$\beta = 0.08, p < 0.01$），退院前カンファレンスへの家族の参加（$\beta = 0.07, p = 0.03$），退院前カンファレンスへの多職種チームの参加（$\beta = 0.08, p = 0.01$），RRQ-Ref（$\beta = 0.07, p = 0.03$），EssenCES における下位尺度『治療的な関心』（$\beta = 0.13, p < 0.001$），NES 総得点（$\beta = 0.52, p < 0.001$）が有意となった。

【考察】

『統合失調症患者の地域定着を目指した病院看護』には，因子 2『再入院の課題の把握』に示される再入院した理由を特定する要素に加えて，因子 1『認知機能とセルフケアへの支援』に示されるセルフマネジメントに関わる教育介入の支援要素が含まれていた。

看護師の省察は，IRERSS の下位尺度のうち患者の状態把握に関わる因子に関連していた。省察は経験を学びとして知識につなげ，次に関わる患者の再入院の理由を把握するために重要となることが示唆された。『統合失調症患者の地域定着を目指した病院看護』には，治療的関心の高い病棟風土や退院前カンファレンスへの地域の多職種チームの参加といった環境要因が関連していた。『統合失調症患者の地域定着を目指した病院看護』には，看護師の個人要因のみでなく，環境要因も関連することが明らかになった。

IRERSS には，統合失調症患者の地域定着に有効な支援項目も，一般的に患者に関わる際に基盤となる支援項目も両方を含んでいる。両側面とも，統合失調症患者の地域定着に向けた看護支援として重要である。今後，どの因子や項目が統合失調症患者の地域定着に有効であるかを明らかにすることが課題となる。

【結語】

『統合失調症患者の地域定着を目指した病院看護』は 5 因子から構成され，再入院の理由を特定する要素に加えて，セルフマネジメントに関わる教育介入の要素が含まれていた。

『統合失調症患者の地域定着を目指した病院看護』は，省察といった看護師の個人要因のみでなく，治療的な関心の高い病棟風土や退院前カンファレンスの開催方法といった環境要因も関連することが明らかとなった。看護師の省察をすすめる教育訓練手法の開発，患者のニーズに関心の高い病棟風土の醸成といった病棟文化の見直し，および患者が入院時から地域のケア提供者とコミュニケーションをとることのできるシステム構築が重要になる。